

ポコ
ゼフィーロ

Poco ZEFIRO

Vol. 6
2016年 クリスマス号

カトリック桂教会 広報紙

編集・発行
カトリック桂教会広報部

「今年のクリスマスに思うこと」 京丹ブロック担当司祭 夫 英豪



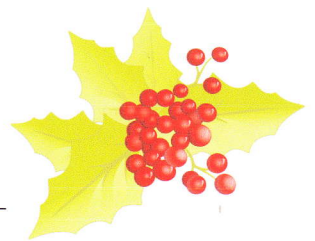
12月9日(金)のミサでは、「派遣の祈り」の前に「ひせきにこもりて」を韓国語で歌っていただきました。

一緒に過ごした長い歳月が流れて……一人で孤独なあの世へ行くね……友よ……あなたが行く所……愛があつて良き……心にいっぱい……愛を抱えて行ってくたさい……(中略)……また再び私たちは会うでしょう……いつ、どこでと決めなくても会うでしょう……愛しい友よ……胸にこびりついてる悲しみや恨みを捨てて安らかに……友よ……安らかに……

この歌は、私が中学生時代に好きだった歌でした。韓国の歌手「ヒマワリ」というデュエットが一九八五年に発表した歌です。卒業式を控えたある若者が、友達に伝えるメッセージを入

れた歌詞です。時間が経つにつれ、この歌もまた私の記憶の中から消えました。そのようにして二十年をはるかに過ぎた今日、この曲を再び聞くことになりました。横浜教区で司牧をしていたある神父様が、去る十一月九日突然心臓まひで亡くなりました。その神父様の葬儀ミサで、友達の死を悲しんで追慕の歌を歌うある同期の神父様の追慕曲でした。葬儀ミサに参加したすべての神父様、信者の方々がその方のこの歌を聞いて涙を流しました。

この文を書く私は今、死者の月を過ぎています。そして、この文は妙なことにイエス様の生誕に合わせて皆さんに伝えられます。イエス様の誕生を喜んでおられる皆さんに、このような話をする理由は、誕生と死はひとつだということを示し上げたいからです。葬儀ミサの時にもしばしば申し上げる話ですが、私たちは洗礼を通じて生まれ変わって、再び私たちの死を通じて復活を信じているキリスト者です。イエス様の誕生は、私たちを生かすために、私たちを救うために死を迎えるた



どこだろう 何だろう？

教会のどこかで撮影したスナップ写真です。これが何だかわかりますか？



正解は広報部員まで



文中に登場するヤコブ・キム・ドヒョン神父様の韓国司教座聖堂での告別式の模様

めの誕生でした。私たちは単に、世の中の人々が世俗的な意味でクリスマスを楽しむために集まって、喜ぶそのようなクリスマスを見望みません。私たちの救世主が、私たちのために死ぬためにこの世にいられたことを、喜んで感謝するクリスマスを私たちは待ち望んだし、今年も間違いなく私たちのためにこの世にいられた神様を迎えて喜んでいます。

異国で淋しく死を迎えた一人の司祭の葬儀で、私は真のキリスト者の姿を見ました。横浜教区での葬儀ミサに続き、韓国の議政府（ウイジョンブ）教区での葬儀ミサと一緒に参例して下さった横浜教区長梅村司教様は二度の追悼辞を通じて「亡くなったヤコブ・キム・ドヒョン神父様は、本当に日本を愛し、自分に任された信者の方々と幼稚園の子供たちを本当に愛したし、また、神父様も彼らに愛されて亡くなったので、今後とも私たちの日本教会のために神の国で祈って下さることを信じます。」と語られました。

私たちのキリスト者の真の姿は、仕事をよくしているか、誰かに認められるかではなく、本当に愛して生きているかにあります。イエス様がおっしゃったように、友のために死ぬことよりさらに大きな愛がないように、私たちは私自身のために信仰生活をするのではなく、私たちの周りのために、私たちが持っているすべての愛を分かち合うそのような信仰生活をしなければなりません。そうするために、イエス様はこの世に来られました。私たちがこの世に生まれた理由も愛するために生まれたのです。

愛しましょう。許しましょう。

愛します。許します。許してください。

皆さんが行く所：皆さんが留まる所：愛がいっぱいありますように。皆さんの心に常にキリストの愛がいっぱいであることを祈ります。私もまたより一層愛するために努力します。私たちは、決めなくてもいつかはどこかで会うでしょう。私たちが本当に愛して生きていく時、その愛の値で私たちは神の国でまた会うことになるのです。アーメン。

神様は愛、そのものです。（1ヨハネ4:16）